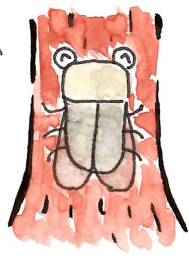


「お坊さんからの手紙」五通田平成二十五年七月

夏の暑さの訪れと共に螢から蝉へとふ山の主役が交代しました。今年に浄泉寺は入賑いになりそうです。

諦める



「諦める」という言葉、みなさんはどのような時に使いますか？

「もういいや・・・」

「絶対無理・・・」

「めんどくさい・・・」

・・・など、どうでもいいとあきらめて物事を投げってしまう時に使っていますか？実はこの「諦める」という言葉は仏教の言葉です。

「明らかにする」というのが、本来の意味であり、「明らかにしたうえで、納得して断念する」とも言います。

つまり、ただ単に「もういいやと、物事を投げってしまうこと」というのではなく、「物事の道理をしっかりとわきまえることになって、なぜそうなったのかという理由を明らかにし、納得してその思いを断ち切る」とも「諦める」と言うのです。

前者は、人や社会などいろいろなことの「せい」にして諦めます。必ず言い訳の出る「諦め」です。人は言い訳を作り出すのがとても得意です。その言い訳にいかみつので次へと進むことができません。

後者は、愚痴や不満をこぼさない、納得の「諦め」です。納得しているのど頭を切り替えて次へと進むことができます。

諦めるべきコトを見極める



本来の意味を考えると、「諦める」とは、決してネガティブな言葉ではなく、納得して前へと進む、未来へ向かったポジティブな言葉であると私は思っています。

私たちは、諦めとはいけないことを簡単に諦めてしまい諦めなければいけないことには、しつこく執着しているように感じます。何を諦め、何を諦めてはいけないのか、その本質が仏教には説かれています。仏さまの教えを道徳として、一語に添えたいと思っています。

「諦める」という言葉を使うときの持ちこたえて、人の生き方は大きく変わるのではなからと私は思っています。

渡邊晃司 拝

